

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	徳島県	事業実施主体	徳島県、那賀町	地域再生計画名	那賀川流域の森林資源（木頭杉）を活かした地域活性化計画						
計画期間	令和4年度～令和8年度	評価責任者	那賀町 副町長 新居宏								

①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
				基準年度		年度	中間実績		基準年度				
	目標 1	地域商社の立ち上げによる雇用創出数の増加	0人	R3	4人	R6	4人	8人	R8	○	指標 総数		達成 数
	目標 2	林業従事者数の増加	168人	R3	189人	R6	138人	210人	R8	×	3		1
	目標 3	年間素材（木材）生産量の増加	100,000m3	R3	125,000m3	R6	55,821m3	150,000m3	R8	×			

②事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度 (R6)	最終実績 見込み	
特別措置を適用して行う事業	町道整備事業（整備延長）	1,280m	486m	1,280m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約38%と若干の遅れが伺えるため、必要に応じ、計画期間の延長も視野に入れ、引き続き、計画に則した整備を目指していく。
	林道整備事業（整備延長）	15,561m	2,952m	15,561m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約16%と遅れが伺えるため、必要に応じ、計画期間の延長も視野に入れ、引き続き、計画に則した整備を目指していく。
その他の事業					
計画外で独自に実施した事業	那賀町地域商社事業	農林業の需要拡大、付加価値の創造および地域経済の循環の推進			林業では植林や除草作業を通じて森林資源を再生し、環境保全と地域雇用を促進。農業では規格外の花きを加工しEC販売することで廃棄物削減と新たな市場創出を実現。さらに阿波晩茶のEC販売やティーバック商品開発、緑茶の生産加工を通じて地域ブランド強化と農業需要拡大に貢献。これらの取り組みにより持続可能な付加価値の創出と地域経済の活性化が図られている。
	森林環境保全整備事業	森林の保育事業を通じて、地域活性化に役立つ間伐材を有効活用し、適切な森林管理に取り組む。			毎年、保育間伐および搬出間伐を適切に実施し、森林整備と間伐材の生産という目的に応じた取り組みを進めている。また、更新伐や人工造林にも取り組むことで、持続可能で適正な森林サイクルの構築を図っている。
	林業成長産業化対策	利用期を迎えた人工林を有効活用し林業を成長産業化するため、間伐や路網整備、高性能機械の導入を進めるとともに、木材加工や木質バイオマス施設の整備を進捗している事業			利用期を迎えた森林資源の循環利用と林業の成長産業化を図るため、林業事業者等による間伐材の生産や高性能林業機械の導入に向けた取り組みを支援した。あわせて、ICT技術を活用したスマート林業の導入も支援し、施業の一層の効率化を目指した。
	農山漁村振興交付金事業	地域の間伐材を燃料利用するためのチップ加工施設を整備し、森林作業道の開設と一体で施業を行うことで、森林資源の循環利用と燃料費の軽減を図る。			木材チップ加工施設を整備し、その運営を地元森林組合が担うことで、安定かつ円滑な施設運営を図っている。原料には間伐材に加え、タンコロ等の林地残材も活用し、より多くの森林資源の循環利用を推進している。また、チップの販売先には木質バイオマス施設も含まれており、バイオマス発電による燃料費の軽減にも寄与している。

③評価方法	那賀町地域再生計画評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。		
④中間評価の公表方法	那賀町のホームページに掲載		
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用し、町道と林道を一体的に整備することで効率的な路線配置を実現し、木材搬出ネットワークを構築することにより、林業・木材産業の生産性向上と振興を図るとともに、住民の利便性を高め、定住人口の増加を目指すことを目的としている。 目標1については概ね計画どおりである。目標2及び目標3については、現時点で目標達成の見込みが厳しい状況にあるが、町道・林道の効果的な整備を行うことで間伐等の施業の効率化を図り、年間素材生産量の増加、それに伴う林業従事者の増加を目指し、引き続き地域再生計画の事業展開を図っていく。		
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況		有りの場合その具体的内容
	地域再生計画の見直し（有・無）		計画上の道路整備を行うことで、地域間のネットワークが強化され目標は概ね達成される見込みであるが、事業進捗状況が若干遅れている。このため、中間評価の結果を踏まえ、計画見直しによる予算の重点配分を行い事業期間を2年延伸する。
	令和8年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 千円		効果発現が高いと予想される路線を再検討し、予算を重点配分するなどして目標達成を目指す。
⑦今後の方針等に対する対応	本地域の再生計画においては、町道及び林道の一体的な事業の整備により、森林整備（森林サイクルの更新）が促進されているため、一定の事業効果が認められ、中間期においては、事業の実施は、概ね妥当であると評価できる。なお、中山間地の町道の整備は、農林産物の流通合理化を進め、災害時に重要な迂回路として効果があると考えられ、また山間部での林業においても林道網を整備することは、間伐等の森林整備はもとより、主伐、間伐材搬出の生産性が向上し、また、道路網の整備により高性能林業機械の導入が進み、林業現場の就労条件が改善され、雇用の創出に繋がる。今後は、事業の進捗状況に遅れが伺えるため、整備箇所の優先順位を再検討し、事業計画（事業量、事業費）を見直すとともに、事業期間を2年間延伸する計画の変更の認定申請を予定し、最終目標達成に向け関係機関や団体等と連携を図る。		